

空の稜線 -skyline, airscape-

403711 加納浩史

Outline of NAGOYA Airport
 Institution / AICHI Prefecture
 Specialized Manager / Nagoya Airport Bldg. Ltd.
 Position / Toyoyama-cho, Nishinari-ku, Aichi
 North latitude 36° 13' 18"
 East latitude 136° 05' 20"
 Altitude / 14 m above sea level
 Length and Width of Runway 2,740 m x 46 m
 Airport Area / About 164 ha



concept keyword

小さなまちの小さな空港

計画背景
 2005年、中部国際の事が決まりました。従来の機能は名古屋空港として従来の機能の拠点として機能が行われていた。本計画は、2025年に整備が完了するとされている名古屋空港の新しいターミナルビルへの設計である。

近年、アジア諸国の拠点機能が、2010年という長期的な国家目標のなかで明確に位置づけられて確保されている。それぞれの空港では、ターミナルビルをはじめとして多様な機能がある空港を設計している。これは、今日の空港が、かつての港、かつての駅のような都市の核として空港・空港の中心にあらたに考えられる。空港の設計は、決められている機能の空条件や航空条件を超えたところにある魅力やカタチにしていかなければならない。

しかし、日本の空港整備計画は、長期的目標もないまま5年ごとの計画で進められてきた。計画・建設段階は官製官営の航空需要を確保するだけで十分である。航空需要の増加は整備計画の上で確保することで対応も試みられている。地方空港については、整備率も低く赤字経営が続いている。名古屋空港のように都市圏への機能の移動の機会が豊富になった例として、広島空港がある。広島県に近く保良の空港だったが、整備後のスタートより大きく伸びた。今ではほとんど使われていない。名古屋空港でも同じことが起こるのか。

名古屋という都市、空港周辺の利便性、いま名古屋空港のあり方が問われている。

小さな空港

小型航空機の拠点空港

ゼネラルアビエーション (GA) 事業

定期航空、貨物航空以外の航空活動全般。

国内通勤用航空

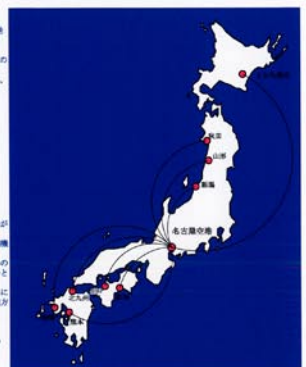
100人以下の航空機を使用する近距離間の航空輸送事業。現在、ジェミニが、とちぎ県立・秋田・山形・新潟・富山・徳島・北九州・熊本・鹿児島・那覇の9都市へ1日2往復の航空便を運送している。名古屋と各都市をつなぐこの機能は、地方空港が求め、各都市がシフトアウトに準備され、航空的な都市づくりが行われる今後の、需要が増して行くと考えられる。

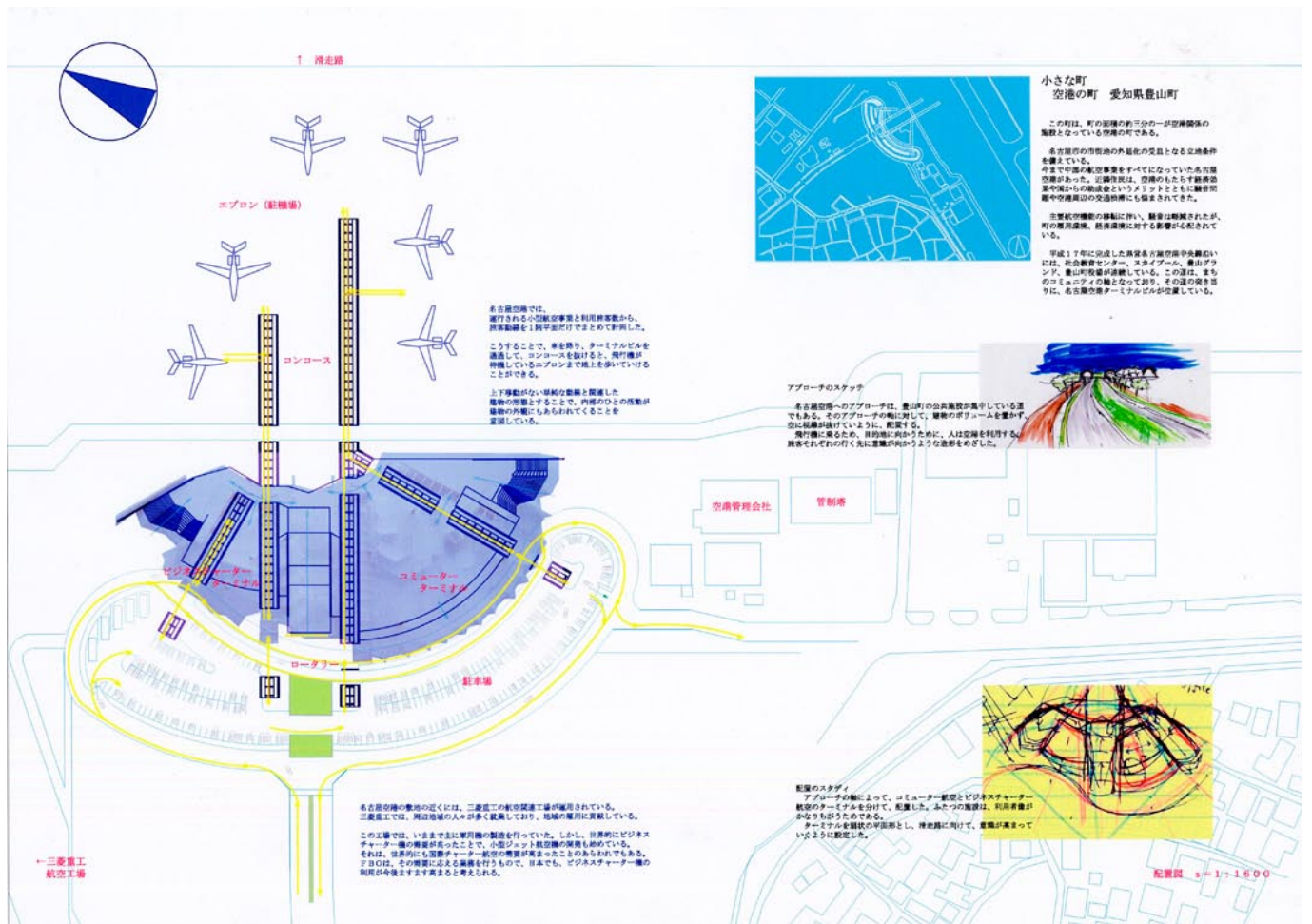
国際ビジネスチャーター航空

日本では、国際ビジネス機の受入体制が十分でないのが現状である。名古屋空港は、主要航空機数機によりヨーロッパ（韓国機を除く）へのサービスに企業が参入している。国際企業では、ビジネス機の利用が多い。国際企業へのサービスでは、日本への乗り入れの機材確保は大きいと考えられる。

名古屋空港がビジネス航空の拠点として整備することによって、世界の航空で活躍する企業だけでなく、空港周辺の航空機の整備、整備機材の整備も期待される。

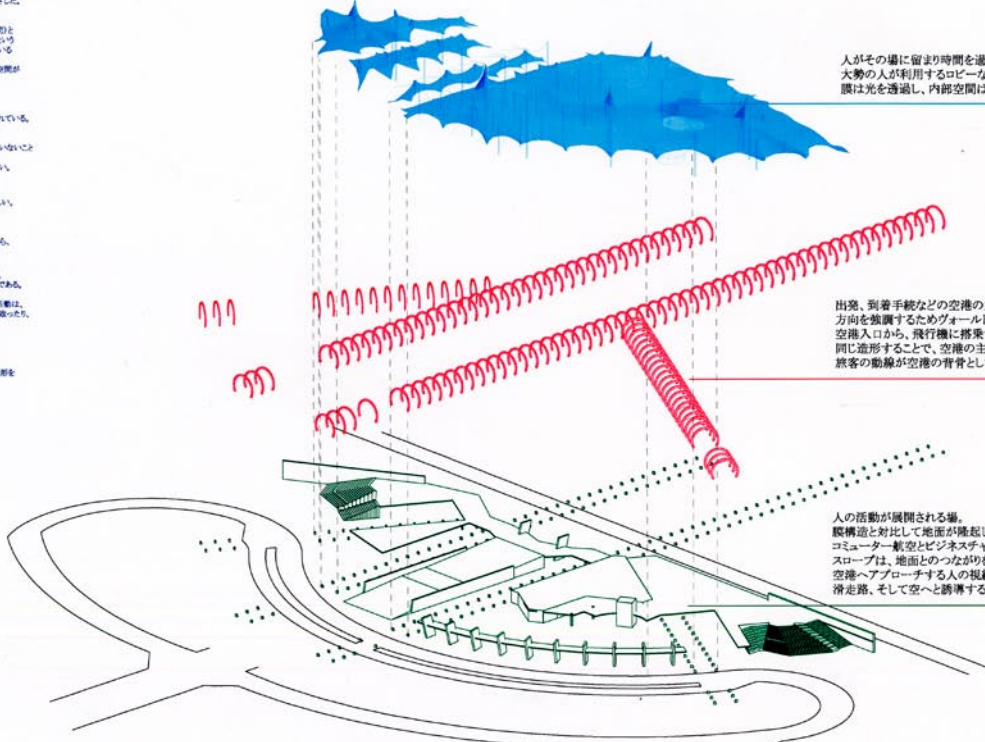
FBO (Fixed Base Operator)
 ビジネス機の運航に関するサービスや、乗客サービスの提供を行う会社。





Diagram

空港は、ひとが飛行機に乗る場所である。
 本計画では、飛行機→乗る場所までのひとの動きとターミナルビルの形態を呼ぶべきことをめざした。
 ひとの動きをいかに考えるか
 空港は、飛行機まで移動する空間(移行空間)と乗り場を通過した少々の空間(停留空間)という二つの空間をもつ空間からなっている。この考えから、停留空間は、ひとの滞在以上で移行空間が大きな意味も持っている。
 配線の空間の空間分析は、空間運用上の観点から、それぞれの平面と特定の空間ごとのつながりを、行き先を導く。このように、ひとの動きを建物の形態が規定していないことであらう。空間の性質にあつた建築形態を考えてみたい。
 豊かな移行空間は、これからの空の旅への期待感を高め、ひとの動きを導くことが望ましい。
 ある意味では、運行される小規模航空事業と利用客から、旅客の動線を上層平面だけで計画した。
 ヴォールトの構造体が単純した移行空間は、人の動きを導く第一の役割をもった空間である。それと比較して、停留空間の中でひとの動きは、多岐である。椅子に座ったり、食事を取ったり、買い物をする。また、停留空間のひとの動きは、方向を指定できないような動的な動きである。この空間に、建物の形態を規定する。建物は、それ自身がまるで「壁」の役割を表現できるように、目の光を透過して、内部空間を導く表現にする。
 大勢のひとが集まる空間は、高さを持つ

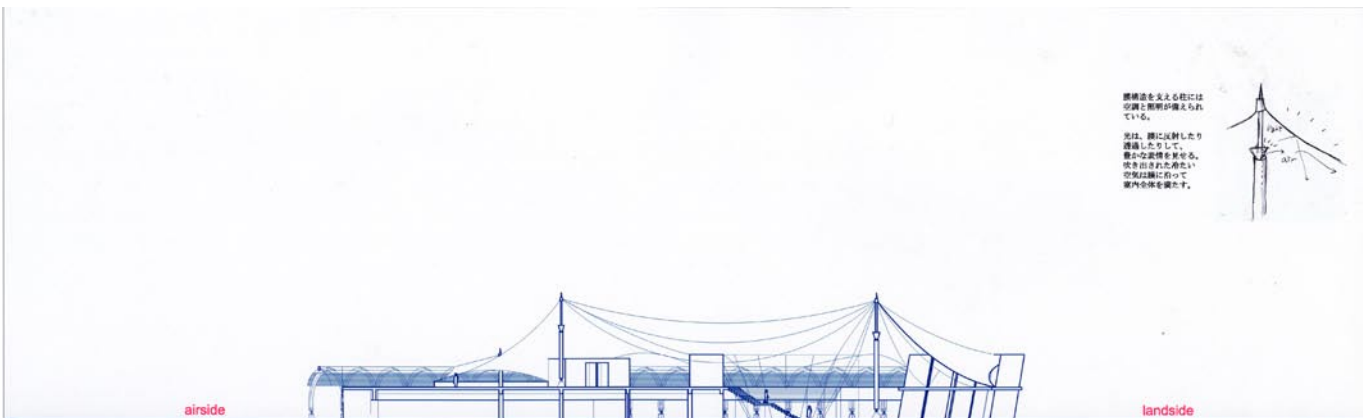




cross section s=1:400

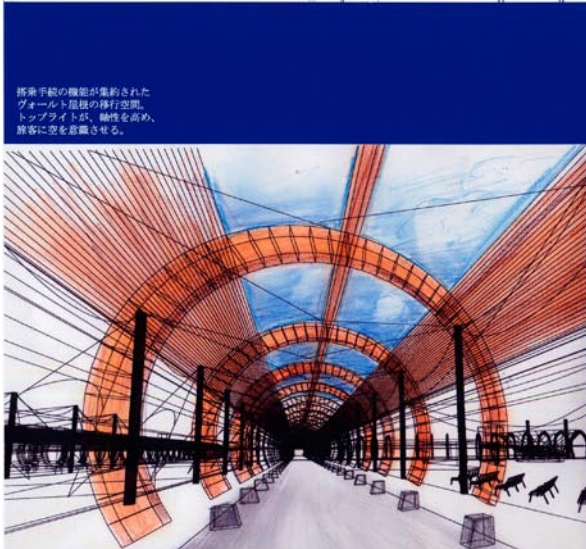


section detail s=1:100



cross section s=1:400

構想図を完成させる際には
 設備と配管が優先されている。
 光は、壁に反射したり
 透過したるして、
 豊かな表情を形成する。
 吹き出された冷たい
 空気は、壁によって
 室内全体を暖めます。



折梁平線の輪郭が集約された
 ヴォールト屋根の移行空間。
 トップライトが、軸性を高め、
 旅客に空を意識させる。



perspective view

